

2016 年 6 月 24 日
都市計画実習 生活安全環境班

PEDESTOP ～ペデの時間はゆっくり流れる～

真田龍 西谷麟 高瀬陸 水谷功輝 高橋佑典
中澤ゆかり 田邊高德 落合遥 田中皓大
担当教官：吉野邦彦 TA：岡部寛

第 1 章 研究の背景と目的

つくば市の魅力の一つとして、つくば駅周辺にある全長 4.8km のペDESTリアンデッキ（別名歩行者専用通路、以下ペDESTリアン）がある。北は筑波大学から、南は赤塚公園にまで続いており、全国でもここまで大規模なものは類を見ない。本実習においても 2005 年の都市経済班や 2012 年のまじわり班など複数の班がペDESTリアンの中心のセンター地区の賑わいに着目し、その周辺の商業施設を活性化するための提案があった。さらに、つくば市もペDESTリアンを「つくばの玄関」と称し、さらに魅力的な場とするために、現在実証実験を含め多様なイベントを開催している。しかし、つくばセンター広場（以下センター広場）から少し離れると、ペDESTリアンは、ただ人々が行き交う通路となり、利用されていない、あるいは利用価値のありそうな空間が多いことに気付く。そこで、本研究では、現在のつくばのペDESTリアンの現状を明らかにしていくとともに、現在通路となってしまうセンター広場以外の部分が人々の拠り所となるような提案をすることで、より一層「つくばの玄関」らしいペDESTリアンを実現することを目的とした。また、本研究では以下の流れに沿って研究を進めていくものとする。



図 1：生活安全環境班の研究の流れ

第 2 章 現状把握調査

2.1 文献調査

交通量調査でおそらく通行目的での利用が多いであろうことが分かったが、これには当初の設計

意図が関係しているのではないかと考え、文献調査を行い、つくばのペDESTリアンがどんな目的で設計されたのか調査した。つくばのペDESTリアンに関しては、筑波大学・小島の「筑波研究学園都市における定住過程に関する研究」（1982）によると、建設された当初は車道によって分断された住宅地と住宅地をつなぐためのものとして出来たようだ。他の資料を見てみても、設計当初の思想では単純に道路として以外の用途はあまり想定されていなかったと思われる。ここで他の都市に目を向けてみる。仙台駅前や立川駅前のペDESTリアンデッキなど駅前と離れた商業施設をつなぐペDESTリアンデッキと比較すると、つくばのものは広場としての機能を持つ場所以外の通路も広い空間になっていることが多い。

2.2 交通量調査

まず、ペDESTリアンは本当に通行目的での利用が多いのかどうかを知るために、交通量調査を 2016 年 6 月 8 日（水）、に実施した。この調査における観測地点は、メディカルセンター前、中央公園前、大清水公園前、二の宮公園前とし、ペDESTリアンの利用者数を年代および目的によって分類し、14:20 から 14:50 までの 30 分間に観測した。また、目的については、観測地付近の施設や設備、公園を利用した人を「立ち寄る」、そのまま通り過ぎた人を「通行する」とした。なお、利用者の年代は、利用者実際に尋ねたものではなく、観測者の判断によるものである。その結果、以下の表 1、表 2 に示す通り、年齢、場所に関係なく通行目的での利用がほとんどであった。

表 1：ペDESTリアンの年代別交通量

年代	通行目的以外	通行目的	年代別合計
～20代男性	4	138	232
～20代女性	0	90	
30～50代男性	4	220	504
30～50代女性	12	268	
60～男性	12	118	202
60～女性	4	68	
合計	36	902	938

2.3 ヒアリング調査

次に、現在のペDESTリアンに対する市の取り組みを調査するために、公共空間の活用に取り組んでいるつくば市役所まちなみ整備課にヒアリング調査を実施した。つくば市では現在、1 章でも述べたように公共空間の活用を促進するため、センター広場を中心にオープンカフェを開くといった実証実験を行っている。また、2016 年 6 月には「ペデカフェ要綱」が制定された。これは、市民から公共空間を活用する要望があれば、まちなみ整備課を通じてつくば市から機材を借りることや、利用の際の手続きを行ってもらうことができるというものである。これにより、市民が公共空間を格段に活用しやすくなる。しかし、要綱はペDESTリアン全体に適用するものであるにも関わらず、センター広場以外の場所は電気や排水等の設備が十分に整っていないため、実際の活用はセンター広場に集中してしまっているのが現状である。

2.4 未利用空間調査



図 2：ペDESTリアンにおける未利用空間調査の結果

市役所に対するヒアリング調査の結果を受けて、私たちは、センター広場以外にもペDESTリアン上で活用できる空間がないかを具体的に探るために、未利用空間調査を行った。調査範囲は、センター広場を除くメディカルセンター前から赤塚公園の間で、班員が実際に現地に赴きペデ上の未利用空間の調査を行った。その結果、ペDESTリア

ン上には未利用空間が比較的広い範囲に多数点在している他、図のように特徴によって「ベンチ・腰掛の空間」、「芝生」、「広場」、「通路脇の空間」、「通路同士の間の空間」の 5 種に分類できることが分かった。

第 3 章 提案のための調査

3.1 第一次アンケート調査

ここまで私たちは、現地調査、文献調査、そしてヒアリングの観点からペDESTリアンの現状を調査してきた。そこで、実際には利用者が現在のペDESTリアンをどのように考えているのか明らかにするために街頭調査を行った。街頭調査は、つくばフェスティバルが開催された 2016 年 6 月 4 日から 5 日に実施し、51 人（内 27 人はつくば市外在住）から回答を頂いた。

第一次アンケート調査では主に「どのような目的でペDESTリアンを利用するのか」、「ペDESTリアンが持つべき役割、現在果たしている役割はなにか」といった質問を中心に行った。その結果を示したのが図 1 及び図 2 である。日常的にペDESTリアンを利用する人の 53.7%は商業目的で利用しており、その他の通学通勤や施設利用、散歩、休息などはいずれも 40%以下に留まっている。特に、休息を目的に利用する人は 7.4%であり、回答者の大半がペDESTリアンを通路として利用していることが伺える。次に、「ペDESTリアンが持つべき役割」については、やはり「歩行者・自転車の通路」の回答が最も多いが、それ以外の 5 つの役割も必要とされているという結果が得られた。それに対して「ペDESTリアンが果たしている役割」では通路以外の役割はあまり果たされておらず、特に休息をとる場所としての役割を果たしていると答えたのは回答者の 32.5%に留まり、「必要な役割」と「果たされている役割」との間に差が生じていることが分かった。

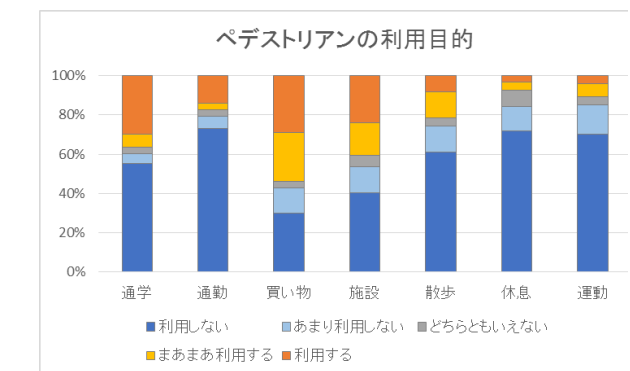


図 3：ペDESTリアンを利用する目的

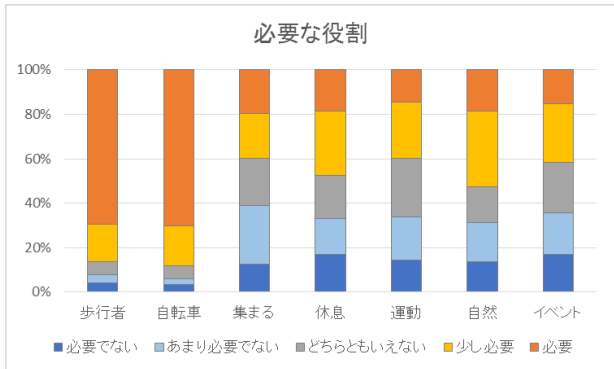


図4：利用者が考える、ペDESTリアンに必要な役割

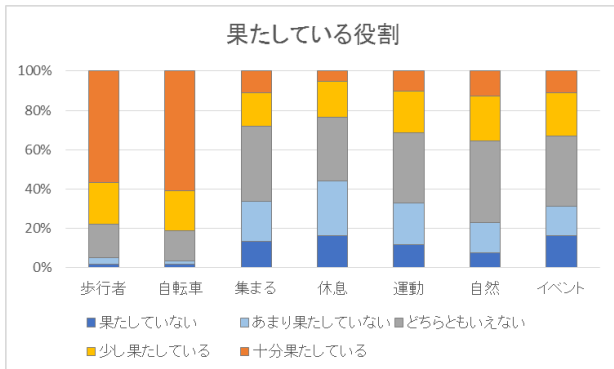


図5：利用者が考える、現在のペDESTリアンが果たしている役割

3.2 第二次アンケート調査

最後に、私たちは、新しいペDESTリアンの具体的な姿を提案するために、「どこにどのような設備がほしいか」という質問を中心に、さらなるアンケート調査を行った。アンケートは、地域環境科学概論の受講者、サークル団体である E.L.L. と Doo-Wop、ペDESTリアンの利用者、そして社会福祉協議会に対して実施し、合計 122 部の回答を得た。また、ペDESTリアンの利用者に関しては西武百貨店とクレオスクエアの間のペDESTリアンにて街頭調査を行った。その結果が図6である。あったら嬉しいと思う設備はデッキチェアが 59.3%、路上パフォーマンスは 34.2%、水遊び場が 40.7%、足湯が 38.1%と高い値を示し、需要がある設備であることが分かった。また、「設備が必要ない」と回答した人の割合がそれぞれ 26.8%、41.2%であった道路脇の空間、通路同士の間の空間は新たな設備の需要がないことが分かった。

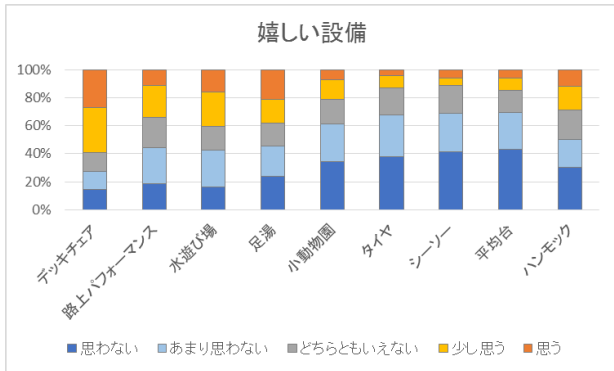


図6：利用者が、ペDESTリアンにあったら嬉しいと思う設備

第3章 提案

これまでの調査から、つくばのペDESTリアンは当初の設計意図通り、多くが通行目的で利用されていることがわかった。しかし、実地調査・アンケート調査でもわかるように、ペDESTリアンにはまだまだ未利用空間・機能も多い。そして、ペDESTリアンの利用者はリラックスできる空間が欲しいという調査結果が得られた。以上のことから、私たちは「別荘地のようなベデ」・「寄り道したくなるようなベデ」を目指して、「広場」と「ベンチ・腰掛の空間」を中心に、日常とは離れた、時間がゆっくり流れるような空間の創出を目指すこととした。

具体的に次のように提案する。

広場には子供たちが遊べるような水遊び場を置き、路上パフォーマンスを行うことで、つい足を運びたくなるような空間とする。週末になると何らかの団体がペDESTリアン上の複数の空間でライブ告知を兼ねた小規模なパフォーマンスを行い、通行者が子供の遊び声や歌などの音に惹かれて少し立ち寄るような空間が創造できる。また、ベンチ・腰掛の空間には足湯を設置し、ゆったり休憩しながら自然と人々の交流やそれによる賑わいが生まれるような空間をつくる。それぞれの場所にはデッキチェアを置き、水場や公園施設で遊んでいる子供を見守りながら、パフォーマンスを眺めながら、別荘地のようにペDESTリアンを味わえるようにする。

第5章 考察

まず、広場の空間についてだが、水遊び場は過去にも大清水公園に存在したが、近辺にマンションができたことで日陰になり、廃止されてしまった事例があるため、立地を検討すればペDESTリアンに復活させることも不可能ではない。しかし

ながら、ヒアリング調査でも明らかにしたようにセンター広場以外の部分では水道設備が十分ではないことから、どこであれば水遊び場が実現できるかについてはさらに調査を進めていく必要がある。また、パフォーマンスについては、現段階ではまだ小規模の団体やイベントはペデカフェ要項に適用されないものの、ペデカフェ要項が施行され、公共空間活用の活性化が促されていることは実現可能性を高めたと考えられる。

次に、ベンチ・腰掛の空間だが、デッキチェアやハンモックは十分に実現が可能である。さらに、屋根のついた半屋外空間とすることで、管理が比較的容易となる。しかし、やはり誰がどのように管理するかは検討する必要がある。足湯はおそらく私たちの提案の中でも実現可能性が最も低いものであろう。コストはもちろんのこと、その水源も大きな問題である。つくばは温泉が湧いているわけでもなく、ペDESTリアン上にも電源やガス設備が整っていないため、安定して温水を提供することが困難である。代替案としては、夏季に限定されるが、冷水を活用した「足水」の提案が考えられる。

以上の考察から、今後の課題として『①コスト面での資産が不十分であること』『②実際に提案を実施した際の利用状況ができていないこと』があげられる。①に関しては、実現可能性を考えるときに重要となるので専門的な見積もりが必要とされる。②については実証実験を行い、実際にペDESTリアン利用者からフィードバックをもらう必要がある。

謝辞

実習を進めるにあたってヒアリング調査にご協力いただいたつくば市役所のまちなみ整備課、環境課、空き家対策室、観光物産課のご担当者様、道路使用の許可をくださったつくば市役所道路建設課、つくば中央警察署交通課、Q' ーティンフォーメーションセンターのご担当者様、アンケート調査にご協力いただいた皆様に感謝いたします。

参考文献

・つくば市市役所ホームページ
<http://www.city.tsukuba.ibaraki.jp/>

・つくば建築フォトファイル
 (NPO 法人つくば建築研究会)

・『歩行者空間の計画と運営』
 (R・ブランビラ G・ロング共著)

・『近代ニュータウンの系譜-理想都市像の変遷-』佐藤健正、p. 37-62s
http://www.ichiura.co.jp/newtown/pdf/modern_nt/02.pdf

・『イギリス社会住宅の団地再生』
 佐藤健正、p. 37-75
http://www.ichiura.co.jp/housing/pdf/e_saisei/a-02-5.pdf

・『香港セントラル地区を中心に広がるペDESTリアンデッキネットワークの形成プロセスに関する研究』
 木下光、西家陽一、日本建築学会計画系論文集 第 79 巻 第 705 号 2014 年
https://www.jstage.jst.go.jp/article/aija/79/705/79_2479/_pdf

・『大崎駅周辺の再開発におけるペDESTリアンデッキの形成と管理について』
 大口剛由、石塚哲也、越澤明、坂井文
 日本建築学会技術報告書、第 17 巻 第 37 号 2011 年
https://www.jstage.jst.go.jp/article/aijt/17/37/17_3_1009/_pdf

・『利用者意識を考慮した駅前ペDESTリアンデッキのあり方に関する研究』
 中尾成政、浅野光行、土木学会第 26 回土木計画学研究発表会、2002 年
https://www.jsce.or.jp/library/open/proc/maglist2/00039/200211_no26/pdf/25.pdf

・『ペDESTリアンデッキ上における路上パフォーマンスに関する考察—北千住・松戸・柏駅を対象として—』
 小峰祐太、早稲田大学創造理工学部 社会環境工学科 建築工学専攻 佐々木葉研究室 卒業研究、2011 年
<http://www.waseda.jp/sem-yoh/temp/08/10komine.pdf>

・『シドニー都市圏のペDESTリアンモールに関する研究』
 安藤徹哉、小野啓子、日本建築学会計画系論文集第 553 号 p. 239-246、2002 年
<http://okinawa-repo.lib.u-ryukyu.ac.jp:8080/bitstream/okinawa/9564/1/No553p239.pdf>

(インターネット上の資料はすべて 6 月 22 日最終閲覧)